毎日新聞

ノスリ
秦野・八国見山周辺で営巣放棄　昨年２月、別の巣なくなる　「異変、あまりに不自然」　／神奈川

毎日新聞 2016年6月1日　地方版

秦野市渋沢の八国見山（やくにみやま）（３１９メートル）周辺で昨年春に繁殖した猛きん類タカ科「ノスリ」が今年の営巣を放棄した問題で、昨年２月には近くにあった別のノスリの巣がなくなっていたことが分かった。自然保護グループ「渋沢丘陵を考える会」の複数のメンバーが現地で確認した。

なくなった巣は、昨春にヒナ１羽が育った巣から約２００メートルほど離れた場所。二つの巣とも、八国見山南面区域での開発が進んでいる霊園に通じる進入路の工事現場近くの中井町松本地区の森にあった。昨年２月９日、観察のため現地を訪れると、営巣木から巣がなくなっていた。

同会メンバーはこれまで１５年にわたって周辺でノスリを定点観察し、繁殖行動を追跡してきた。「営巣木の周囲には下草がなく、地面に多くの足跡があった。営巣木の樹幹にはハシゴを掛けたような傷跡が数カ所あった。自然落下なら巣材が周りに散乱するはずだが、巣材は全く見当たらなかった」と話している。

ノスリは同じ巣を翌年も繁殖に使う場合、古い巣を補修して利用する習性がある。「モグラやネズミなどのエサをとる採餌場が競合する近接した場所で、二つのつがいが同時期に営巣することはあり得ない」と指摘。今年の営巣を放棄した巣について「昨年春に繁殖したつがいが、もとの巣がなくなったため、近くの木に新しい巣を作った可能性が大きい」と推測している。

霊園開発事業者の公益財団法人「相模メモリアルパーク」が２０１４年に市に提出した墓地経営許可申請書の添付資料「猛きん類繁殖行動の現状」は、この巣について「１２年に落巣（強風の影響と推察）した。１３年の繁殖期は事業地周辺での営巣は確認されなかった」としている。

だが、同会メンバーは「１０年以上も補修、補強を重ねて利用してきた巣が、強風で落ちることは考えられない。ノスリはいったん営巣するとめったによそには行かない」と指摘。「同じノスリが１２年の落巣を経て１４年に近くに新しい巣を作り、昨年２月になくなった後に３番目の巣を作ったのだろう。巣の異変はあまりに不自然で、人為的な仕業の疑いがある」と話している。【高橋和夫】